

かいほ ジャーナル



【特集】海上保安大学校

羽ばたけ! 若きリーダー達



1月18日は「118番の日」です
118番イメージモデル 杉良太郎さん(裏表紙へ)

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



平成23年5月9日 世界一周遠洋航海のため、
呉港を出港する「練習船 こじま」

Japan Coast Guard Journal Vol.49

CONTENTS

グラビア

震災復興イベントに音楽隊が参加	1
第12回北太平洋海上保安フォーラムサミットの開催	1
フィリピンコーストガード長官が海上保安大学校を訪問	2
2011海保フェアin立川 開催!	2
しきしま級巡視船起工式	3
韓国と共同で放射能調査実施	3

【特集1】

海上保安大学校

羽ばたけ! 若きリーダー達 4

【特集2】

海上保安庁海洋情報部の庁舎が移転しました 10

NEWS FLASH 12

1月18日は「118番の日」 裏表紙



震災復興イベントに 音楽隊が参加

8月15日、新潟県三島郡出雲崎町において、中越沖地震及び東日本大震災の復興を祈願した「東日本大震災復興支援 汐風ドリー夢カーニバルⅣ」が行われ海上保安庁音楽隊が参加しました。地元出雲崎町の観光大使である演歌歌手ジェロさんの「海雪」を含む8曲を演奏したほか、会場では第九管区海上保安本部が学生募集活動、海洋調査教室等を実施して来場者へ海上保安庁の業務紹介を行いました。

9月12～15日の間、北太平洋地域6カ国の海上保安機関の長官級による「第12回北太平洋海上保安フォーラムサミット」が横浜で開催されました。

このサミットでは、各国海上保安機関の長官級が、互いの絆を一層強化することで、北太平洋の海上安全、セキュリティー並びに海洋環境を守り抜くとの決意を新たにしました。



第12回北太平洋海上保安 フォーラムサミットの開催





フィリピンコーストガード長官が 海上保安大学校を訪問



9月6日、フィリピンコーストガードのリワグ長官(写真左)が海上保安大学校(広島県呉市)を訪問しました。海上保安大学校では瓜生晴彦大学校長(写真右)を表敬訪問し、シミュレーションセンター、潜水訓練用プール、練習船「こじま」などの施設見学が行われたほか、現在実施されているアジア海上保安初級幹部研修等の授業を見学するなど、日本とフィリピン間の海上保安機関の交流を深めました。



2011海保フェア in立川 開催!



10月1日、海上保安試験研究センター(東京都立川市)において「2011海保フェアin立川」が開催され、約1,700名が来場しました。来場者は科学捜査技術や研究開発用の機器を応用した体験・実験コーナーを通じて同センター業務への理解を深めました。また、海上保安庁音楽隊のランチタイムコンサートは、晴天にも恵まれ、昼食とともに音楽を楽しむ家族連れなど多くのお客さんで賑わっていました。

しきしま級巡視船起工式



■完成イメージ図



10月5日、海上保安庁最大の巡視船「しきしま」と同クラスの巡視船の起工式が横浜の造船所で行われました。起工式では、鈴木海上保安庁長官（写真左）と造船所関係者によって溶接機のスイッチが入れられ、起工溶接が行われました。

この船は遠方海域・重大事案等への対応体制を強化するため、被害制御・長期行動能力等を備えた巡視船として平成22年度に計画され、平成25年度の就役に向けて建造が進められています。

韓国と共同で 放射能調査実施



海上保安庁では、従前から日本海周辺海域の放射能調査を実施し、経年的な監視を行っています。

平成18年以降は日本海南西部の放射能調査を毎年、韓国と共同で実施しています。今年も9月15日～28日の間は当庁測量船を、10月17日～24日の間は韓国側の船舶を使用して調査を行いました。これまでのところ特段の異常は見つかっておりません。

！若きリーダー達

海上保安大学校は、将来海上保安庁の幹部となる人材を育成する教育機関だ
4年間の本科で幅広い知識と実習経験を積んだ学生達は世界1周の遠洋航海実習を経て、
それぞれの赴任地へと巣立っていく
将来を担うリーダー達が育成される現場をレポートする

取材・文／中島 敦(オンサイト)

知識と体力、そして人格の育成

海上保安大学校は、海上保安庁の幹部候補となる職員を養成する機関として、昭和26年4月に設置された。当初は東京都江東区の仮校舎でのスタートだったが、翌27年5月には現在の広島県呉市に移転。3方を瀬戸内の海に囲まれた広い敷地には、本館、各種実験棟、潜水訓練用プール、シミュレーションセンター、運動場、図書館、学生寮といった施設が設けられている。訓練用に各種の実習艇を擁し、また呉海上保安部からは練習船として大型巡視船「こじま」が派遣されている。

海上保安庁幹部職員としての人格とリーダーシップを育てることを目的としている海上保安大学校は、次の3点の教育方針を掲げている

- 1 人格の陶冶とリーダーシップの涵養
- 2 高い教養と見識の修得
- 3 強靱な気力・体力の育成

ここに、般大学と海上保安大学校の大きな違いが見て取れる。海上保安大学校は専門的な分野に特化した研究者やスポーツ選手を求めているのではなく、現場で任務を遂行する海上保安官として、そして指揮官として、知識教養と同時に気力体力、何より優れた人格を育てることを目指しているのだ。

必然的にカリキュラムは多岐に及ぶ。4年間の本科では一般教養として哲学や文学、法学といった、いわゆる文系の科目から、数学、物理学、化学という理系科目までが網羅される。これは専門科目においても同様で、理系文系に限定されない専門分野が幅広く用

船の基本はカッターにあり 西日本新人戦で女子カッター部が優勝!



11月3日、海上保安大学校前の海域にて、第57回西日本新人カッター競技大会が開催され、海上保安大学校女子カッター部が見事優勝、また男子カッター部も準優勝を飾った。一般（男子）の部9チーム、女子の部に6チームが参加した。「カッターには船の操作の基本がすべて詰まっています」と中野教務課長が説明するように、海上業務を基本とする海上保安庁職員にとっては欠かすことのできない競技。女子クルーは新入生の数が足りないため、他のクラブからメンバーを集めての参加だったが、日頃の練習の成果と持ち前の「負けん気」を遺憾なく発揮しての勝利だった。



海上保安大学校

羽ばたけ

意されている。同様に気力体力を養うための訓練についても、総合指揮、カッター、水泳、逮捕術、潜水、救急安全法と多彩な訓練科目が用意され、文字どおり心身ともに鍛えられていく。

「一般の大学ではひとつの研究に打ち込めるかもしれませんが、ここではいくつものことに力を注がなければなりません」と説明するのは、教務部教務課の中野勝哉教務課長だ。

「我々は学生を研究者にするために育てているのではなく、海上保安業務を遂行するリーダーとなる人材を育てています。学業のみならず訓練にしても、現場で経験を積んだ海上保安官が教官として学生と体でぶつかりあつて指導し体力や技術を向上させ、指

揮能力やリーダーシップを叩き込む。もちろん学生は大変ですが、それを超えていかなければ、リーダーとして育つことはできません」

さらに、より実践的な実習として、海上保安大学校在学中には本科および専攻科を通じて1年間の乗船実習が行なわれる。この実習を通じて船舶の運航に関する知識技能を習得し、併せて海技免状取得に必要な乗船履歴を確保する。また現場で海上保安業務を実施するうえで必要な知識や技能、リーダーとしての素養を身につけることも乗船実習の重要な狙いのひとつだ。3学年では船舶運航の基礎を身に付けるため3ヶ月間の日本1周の国内航海実習を、4学年ではさらに専門的な内容で4ヶ月間の実習を行ない、専攻科では総仕上げとなる世界1周の遠洋航海実習を実施。ここでは各寄港地などにおいて国際感覚の涵養を図ることも重要な目的となる。

世界有数のシミュレーター設備

広範かつ深い知識と体力技術の両立は、海上保安業務の特性によるものとも言える。海上の事案についてはすべて受け持ち、外国籍の船舶や乗組員と接することも多いだけに、関連する法律など必要な知識、そして現場で対応するための技術は広範にわ



平成22年6月に竣工した潜水訓練用プール。広さ25×15m、水深は1.3m～5mまで3段階となっており、学生の水泳訓練や研修科潜水技術課程の潜水訓練に活用されている。



たるからだ。

その一方で海に関しては専門家であり、この部分では他の誰よりもエキスパートでなければならぬ。例えば、平成16年に設立された海上保安シミュレーションセンターは、海上保安庁が所有するほとんどの巡視船艇はもちろん、巨大タンカーなど一般船のデータも用意され、多種多様なシチュエーションを作り出して船舶の安全運航や業務対応の訓練を行うことができる設備だ。船橋をぐるりと取り囲むように配置された大型スクリーンに映し出されるリアルな映像で、実際に操船しているのと極めて近い環境で訓練を行うことができ、規模、機能どちらの面においても世界トップクラスの性能を有している。

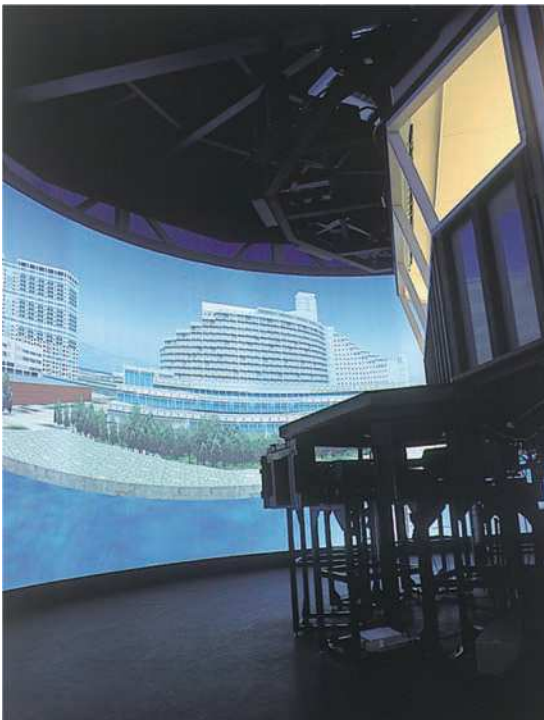


常に伸びようとするモチベーションを

本科4年、専攻科6ヶ月、そして国際業務課程6ヶ月と5年間に及ぶ勉強と訓練の中で、学生・研修生は常にリーダーとなる自覚を持ち、「自分で考え、行動する」姿勢が求められる。それだけの月日をかけて幹部職員となつて現場へと巣立つわけだが、それが新たなスタートに過ぎないことは、瓜生晴彦大学校長の言葉に端的に表されている。

「ある意味、ここでは基礎しかできない。どれだけ勉強し、訓練しても現場に出れば必ず壁に突き当たる。その時にへこたれることなく、そして部下の前で弱音を吐くことなく、問題に対処し乗り越えていく。そんな基本的な力を、海上保安大学校で身につけて欲しいと考えています」

どんな状況にもくじけない気持ち、常に前に進み伸びようというモチベーションを身につけて、新たなリーダー達は現場への一歩を踏み出していく。



世界有数の規模を誇る操船シミュレーター

大型円筒形スクリーンと模擬船橋を備えた操船シミュレーターによって海上保安官や学生が操船を学ぶ訓練設備が海上保安シミュレーションセンターだ。大小ふたつの船橋を持ち、第1船橋には縦6m、長さ27.5m、半径6.5mという大型の円筒形スクリーンが設置され、水平視角度245度、垂直視角度60度の、まさに包み込むような視界でリアルな操船を体験できる。再現できる船舶は各種巡視船艇はもちろんのこと、大型タンカーなど20種類以上。夜間の映像はもちろんのこと、雨天や波など、さまざまなシチュエーションを作り出すことで幅広い訓練に活用されている。

海上保安大学のカリキュラム

海上保安大学では、4年間の本科で基礎科目や専門科目を学び、同時に訓練科目や実習科目、そして乗船実習を行う。卒業すると学士の他、専攻に合わせ海技士などの資格を取得する。卒業後は6ヶ月の専攻科へ進み、ここで世界1周する遠洋航海実習を受け、国際感覚を養う。また、本年度からはさらに国際業務課程(6ヶ月)も実施されている。

1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		専攻科(6ヶ月)+[研修科] 国際業務課程(6ヶ月)	卒業後の 進路
基礎教育科目 幅広い教養を身につける		共通科目		選択科目					
専門基礎科目 専門教育を受けるため、まず必要な基礎能力を身につける		共通科目		群別科目					
		国際政治、政策科学、情報科学、気象学、海洋学、実務英語 等		第I群(航海)・第II群(機関)・第III群(情報通信)のいずれか					
				第I群 航海学、船用計測工学、船体運動工学、海事法、船舶工学 等					
				第II群 材料工学、機械力学、機械設計、設計製図演習 等					
				第III群 情報理論、回路理論、システム理論、電磁波工学、通信工学実験 等					
						取得資格 学士(海上保安)のほか次のような資格が取得できます			
						第I群 三級海技士(航海) 筆記試験免除			
						第II群 内燃機関三級海技士(機関) 筆記試験免除			
						第III群 航空無線通信士 第二級海上無線通信士 第二級陸上無線技術士			
						※[一級海技士(航海)][一級海技士(機関)]などさらに上位の資格も取得できます。			
専門教育科目 複雑化、国際化している海上保安業務に対応するために必要な、高度な専門能力を身につける		共通科目		分野別科目					
		行政法、国際法、民法、刑法、刑事訴訟法、海上犯罪捜査論、捜索救助論 等		第一選択分野、第二選択分野のいずれか					
				第一選択分野 海上警察					
				海上犯罪論、海上取締法、国際海洋法、警察管理政策、国際紛争論 等					
				第二選択分野 海上安全					
				海上交通工学、海上安全工学、海難救助工学、海上防災工学、システム工学 等					
訓練科目		逮捕術から救急安全法まで特殊技能を身につける		逮捕術、けん銃、武器、信号、潜水、端艇、水泳、総合指揮(基本動作等、統率管理)、救急安全法 等					
実習科目		小型船舶の操船技術や通信技術を学ぶ		小型船舶、通信実技、国際通信実習 等					
		乗船実習		習得した船舶運航の知識、技能を実際の船上で実践し、業務遂行能力を身につけます。					
				国内航海実習		遠洋航海実習			

※卒業後、「潜水士」「特殊救難隊員」「国際取締官」航空機の「パイロット」といったスペシャリストとして活躍する道もあります。

年間行事	
4月	入学式
5月	遠洋航海出港式
6月	海神祭(学生祭)
7月	遠泳訓練
8月	オープンキャンパス
	遠洋航海帰港式
9月	帆走巡航
11月	特別研究(卒業論文)発表会
1月	耐寒訓練
3月	卒業式

一日の流れ	
06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45	授業
12:00	昼食
13:00	授業
	授業終了後体育部活動
17:15	夕食・入浴
19:00	自習時間
22:15	帰校門限
22:30	巡検・消灯

※原則として17:15以降毎日外出は可能です。休日の前日は外泊もできます。
 ※帰校門限22:15(翌日が休日の場合は22:45)
 ※おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。
 ※そのほかに、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

■幹部をめざす現役海上保安官は特修科へ

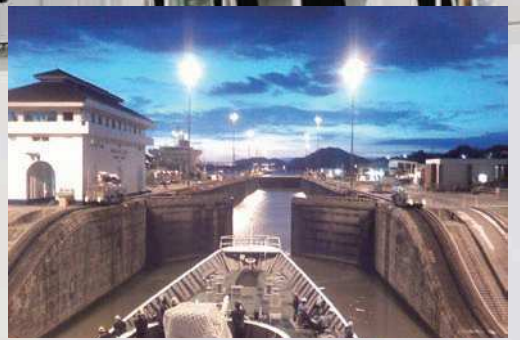
海上保安学校を卒業して既に現場に出ている海上保安官には、海上保安大学校の特修科に進むことで幹部への道が開かれる(選抜試験に合格する必要あり)。6ヶ月ないし1年の課程を経て、幹部として現場に復帰する。現在、特修科には44名(うち1名は女性)が在籍しているが、最近はより若い海上保安官が特修科へ進むケースが増えているという。

■11月5日、創設60周年記念イベント開催

創設から60周年を迎え、海上保安大学校は11月5日に記念イベントを実施した。練習船『こじま』の一般公開では、悪天候のため体験航海は実施できなかったものの、400人もの方々が集まり船内を見学した。



映画『海猿』で使用されたウェットスーツを展示したり、潜水研修生による潜水訓練実演、シミュレーションセンターや資料館の一般公開、学生生活の写真パネル展なども実施し、集まった方々の好評を博した。



パナマ運河を通過する練習船『こじま』。

その年の海上保安大学校本科卒業生であり専攻科に進んだ研修生が、現場を前に若きリーダーとなるために「4年間の集大成」として行うのが、およそ100日間に及ぶ遠洋航海実習だ。練習船となる「こじま」は、先代に比べ船型も大きくなり、平成6年度から毎年5月～8月にかけて世界1周を行っている(なお、現在毎年世界1周を行っているのは、わが国の練習船では、「このこじま」のみ)。2011年は呉を出港後、ホノルル、ニューヨーク、イスタンブール、シンガポールに寄港し、途中、パナマ運河、スエズ運河や海賊出没海域であるソマリア沖アデン湾、マレーシア・シンガポール海峡を通過するとともに、時には荒天の中、世界の七つの海の大半を航海した。

研修生自らが準備、企画

3年、4年と実習を重ね相応の経験を積んできた専攻科実習生を対象としているだけに、この遠洋航海実習を通じて研修生は、主任の士官として現場で当直時の指揮を執れるレベルにまで引き上げられるとともに、初級士官として求められるすべての知識技能が叩き込まれる。さらに防火・防水訓練や電源喪失を想定したブラックアウト訓練など、実践的な各種訓練が行われ、また行事も実施される。これらは企画、準備など研修生自らの手によって行われる。プロジェクト毎に研修生の中から総指揮や責任者が指名され、また、プロジェクトチームが編成されて、企画立案から準備、実施まで研修生主体で進められるのだ。これらの訓練を通じてリーダーシップだけでなく、企画力や実行力が養われる。

ARD

■海上保安資料館で海保の歴史に……

一般市民にも無料開放されている海上保安資料館には、過去から現在に至る巡視船艇や飛行機、ヘリコプターなどの模型や写真、海上保安庁の業務を紹介する写真パネルなど、約1000点近い展示物が並べられている。写真右上は平成13年12月に九州南西海域不審船事案で銃撃を受けた巡視船「あまみ」の船橋全面実物。生々しい弾痕から銃撃の激しさが伝わってくる。



4年間の勉強、訓練の集大成

世界一周の遠洋航海実習で 国際感覚を身につける

Japan
Coast
Guard
Academy



求められる国際感覚

海を通じて世界各国は繋がりが、各国の船舶はこれらの海を行き来している。海上保安業務を行う上で、海上保安官には国際感覚が強く求められる。また、今や世界を代表する海上保安機関となっている海上保安庁の業務を実施する上では、海難救助、環境保全、海上交通の安全確保、海賊対策、海上犯罪の取締まりなど、多岐にわたって各国海上保安機関との国際連携、国際協力が不可欠となっている。

このため、遠洋航海実習の大きな目的のひとつが、国際感覚を身につけることにある。各国海上保安機関の施設や国連本部などを見学し、それぞれの状況を把握するとともに、さらなる交流を図るために、各寄港地でレセプションなどの行事を行っている。

さらに数年前から米国コーストガードアカデミーの学生や東南アジア諸国のコーストガードの職員が途中の航海に同乗し、共に訓練などを行い、互いに交流を深めている。これらを通じて研修生自身の「国際感覚の涵養」、「英語能力の向上」に役立てていくのはもちろんのことだが、研修生自身が海上保安庁の代表者として、また、日本の若き使節団として国際交流に寄与している。また、寄港地での停泊中には、2日程度の休暇があり、史跡や美術館を巡ったりスポーツ観戦に興じるなど、それぞれが海外での経験を重ね見聞を広げることになる。国際感覚溢れる、近い将来のリーダー達はここから生まれる。

海上保安庁海洋情報部の庁舎が移転しました

海上保安庁海洋情報部は、東京都中央区築地から江東区青海の新庁舎へ移転し平成23年12月12日よりすべての業務を新庁舎で行っています。
海の相談室、海洋情報資料館も新庁舎の1階へ移転しています。



【新庁舎外観写真】



【新庁舎案内図】



海図と海洋情報全般についてのお問い合わせ

海の相談室

☎03 - 5500 - 7155

通報・海図の複製使用に関するお問い合わせ

水路通報・航行警報について

☎03 - 5500 - 7165

海図の複製使用について

☎03 - 5500 - 7139

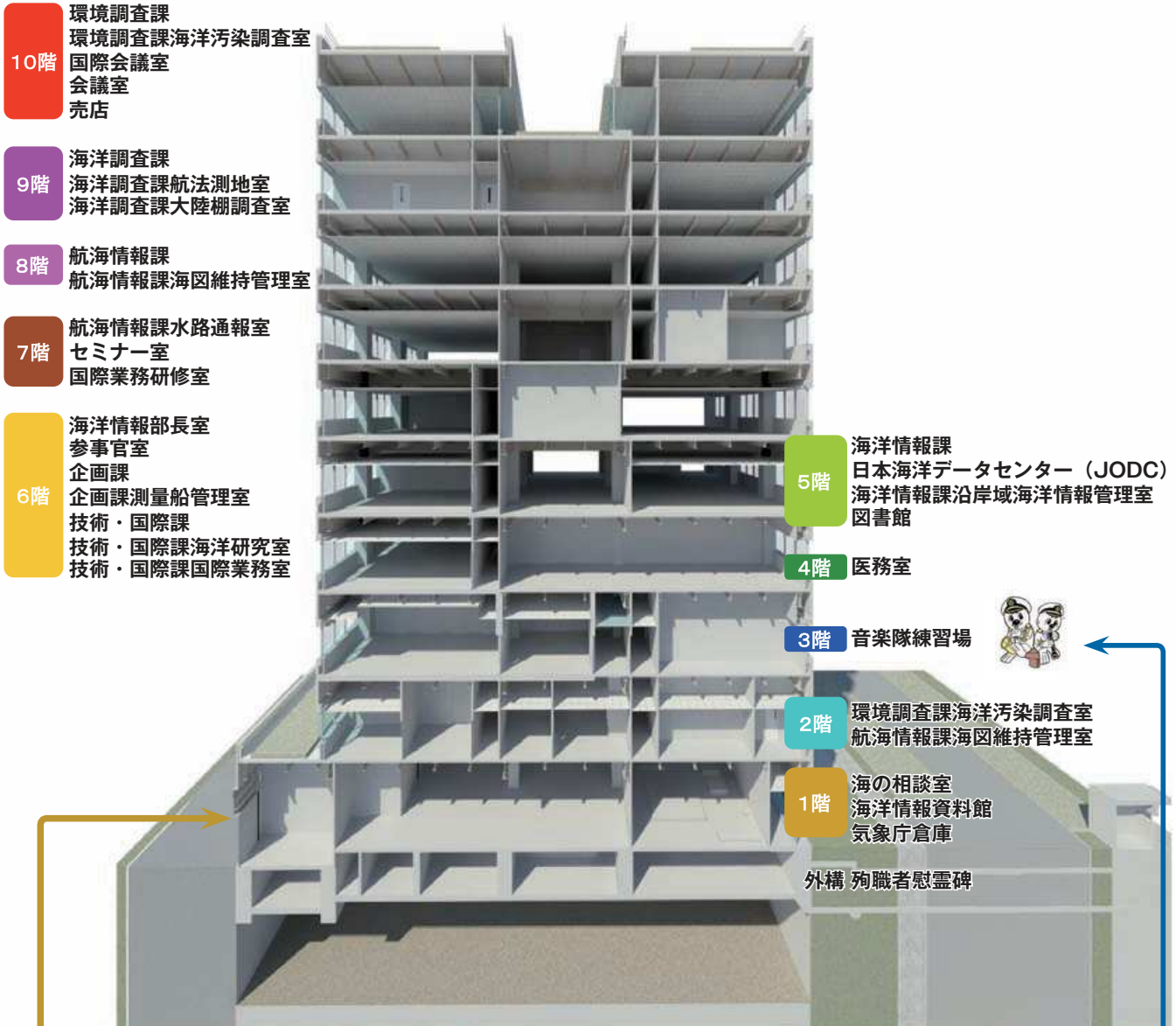
【住所】〒135-0064 東京都江東区青海2丁目5番18号
国土交通省青海総合庁舎 海上保安庁海洋情報部

【交通】新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」駅下車 徒歩5分

【電話】03-5500-7120(代表)

【新庁舎内部イラスト】

屋上階 衛星受信アンテナ
太陽光発電システム等



1階 海の相談室

【利用時間】

午前10時～12時
午後1時～午後5時

【休館日】

土・日曜、国民の祝日
年末・年始（12/29～1/3）



3階

海上保安庁音楽隊

音楽隊練習場も青海庁舎へ移転し、
新たな施設で練習を行っています。

【分奏室】

【合奏室】



巡視船「そらち」と警察によるテロ対応訓練
(9月27日・紋別海上保安部)



**石川県珠洲市で
合同沿岸警備訓練**
(10月26日・能登海上保安署)



**海上保安大学校創設60周年
記念イベントでの潜水訓練実演**
(11月5日・海上保安大学校)



合同テロ対策訓練
(9月13日・対馬海上保安部)

FLASH



海上保安学校卒業式
(9月29日・海上保安学校)



高校生がガソリンポンプ消火訓練を体験
(10月6日・根室海上保安部)



**海上保安庁音楽隊
第18回定期演奏会**
(11月12日・海上保安庁音楽隊)



**巡視船「あかぎ」一般公開で
うみみんと記念撮影**

(10月30日・茨城海上保安部)



金沢港で練習船「こじま」一般公開

(9月23日・金沢海上保安部)



大碓鼻灯台一般公開

(9月24日・佐世保海上保安部)

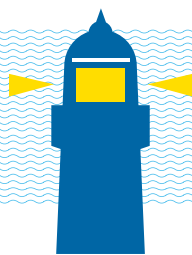


**米子鬼太郎空港
フェスタ2011
うみまると記念撮影**

(10月15日・美保航空基地)

**JCGフェスタin舞鶴
海上保安学校
学生音楽隊船上コンサート**

(10月16日・海上保安学校)



NEWS

**第12回未来に残そう青い海・海上保安庁
図画コンクール長官賞等決定(11月14日)**



小学校高学年の部
今治市立城東小学校 6年生
矢嶋花帆さん



小学校低学年の部
青森市立戸山西小学校 2年生
高坂朝陽さん



中学生の部
可児市立中部中学校 3年生
加藤美紀さん

海上保安庁
長官賞

海上保安協会
会長賞



小学生高学年の部
日向市立富高小学校 5年生
磯崎 日菜子さん



中学生の部
柏崎市立瑞穂中学校 2年生
駒野 将さん



小学生低学年の部
舞鶴市立倉梯小学校 1年生
真下耀佑さん

海の安全を守ること
これこそわが人生

海上保安庁は2011年
毎年**1月18日**を
「**118番の日**」
に制定しました。

海の「もしも」は**118番**

平成24年 海上保安庁 118番イメージモデル 杉 良太郎



海上保安庁

協賛：(財)海上保安協会

かいほジャーナル49号

平成23年12月22日発行

編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD